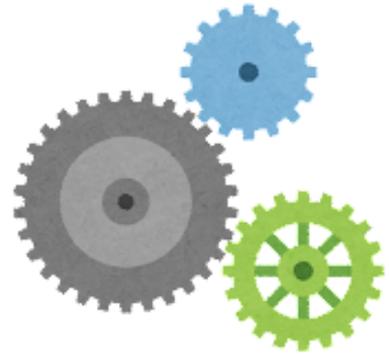


歯車

こんにちは。猫パンチです、先月号（VOL.303）のファイトで『これまでの連載（「猫パンチ」）は女性ユニオンのホームページに移行して、引き続き看板を担ってもらっています。』と取り上げてもらいました。看板っっっ！ いい響きです。褒められると俄然やる気がでてくる猫パンチ氏。調子に乗って木に登ると自力では降りられなやい。消防車の出動要請も検討しなければなりません。



先日、兄嫁と甥（10才）が上京しました。兄嫁がT大駒場でセッションの間、甥を預かってほしい、とのこと。東京駅の銀の鈴で待ち合わせをしました。コロナ禍もあり、約5年ぶりの再会でした。以前は、チョロチョロ動き回って、ママ（兄嫁）に取り押さえられていたのに、今回は賢しげに挨拶をします。行き先は、東西線葛西駅近くの地下鉄博物館です。本来であれば、鉄男を大宮の鉄道博物館に連れて

行ってきたいところなのですが、往復4時間以内に収めることができないことと、一旦、鉄博に行くと、地下鉄博物館では物足りない、と感じるであろう、と考え、地下鉄博物館にしました。

館内は閑散としていて、地下鉄の歴史を物語る古い写真や実際に使われていた旧車両が展示されています。一番の目玉は、運転シュミレーションです。運転席に座りブレーキバーや加速バーを握ってスクリーン上の千代田線を運転するのです。振動も伝わるよう設計しており、甥のテンションはMAXです。猫パンチも列に並んで運転してみました。男の子はどうして電車だの車だの回転するものが小さいころから好きなのでしょう。長じて会社の歯車になること



が運命づけられているのかもしれませんが。展示してある古い写真には満員電車の様子もあります。甥も何十年後には、バーコードで地下鉄通勤するかもです。ドローンだったりして。

更に古い写真には、第二次世界大戦中の写真もありました。男たちが戦地に駆り出され、人手不足の中、多くの女性が切符切りや車掌として働きました。男性の中に女性がチラホラどころか、ほとんどが女性でした。JKが工場で主戦力となって働いた時代でした。紛争のない世界で女性が働くことの大切さを感じたひと時でした。 猫パンチ

